



2008 平成20年

1

誌面に掲載した記事・写真等の無断複製・転載等はお断りします。お問い合わせ・ご意見は狛江市市民協働課へ

発行 ● 狛江市市民協働課
〒201-8585 狛江市和泉本町1-1-5
☎ 3430-1111 FAX3430-6870
Email=wacco@city.komae.lg.jp

編集・制作 ● 特定非営利活動法人 k-press
〒201-0012 狛江市中和泉3-2-16
プランツベルツ201
☎ 3430-6617 FAX3430-6743
Email=wacco@k-press.net

2005年



むいから民家園

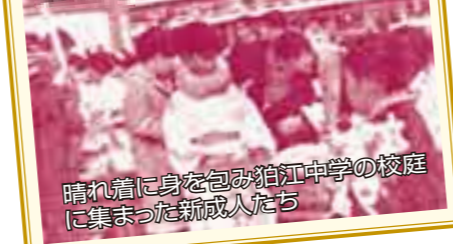
むいから民家園は元日に開園、昔のお正月の雰囲気味わえる

嬉しい受け継ぐ伝統の行事

正月の行事

新成人

1967年



晴れ着に身を包み狛江中学の校庭に集まった新成人たち

狛江が農村地帯だったころ、新年を祝う昔ながらの風習が代々受け継がれてきたが、都市化に従って次第に薄れてきた。しかし、いまま市内の神社やお寺へ初詣に訪れる人も多く、また伝統を大切に守っている家も見ることができる。小正月の行事のどんど焼きは、狛江では「セイノカミ」と呼ばれ、子どもたちが各所で行っていた。しかし、田畑が宅地に変わるにつれて次々と姿を消し、現

在は多摩川河川敷でボーイスカウトによって催されている（ことしは1月13日午前10時から）。戦後に全国各地で始まった成人式は、狛江でも「成人をお祝いするつどい」などの名称で小学校や中学校、福祉会館（現・西河原公民館）など会場を移しながら「成人の日」に催されてきた。10年前からは新成人が企画・運営を担当、エコルマホールの会場でなごやかに交流が行われる。



3が日は働いてはいけない

秋元キサさん（83歳・駒井町）の話
中和泉の実家では、お雑煮は濃いめのすまし汁にダイコン、ニンジン、サトイモ、青菜、ネギ、油揚げなどその時にあるものを入れて作っていました。おせちには、きんとん、ごまめ、こぶ巻き、コンニャク、ダイコン、ちくわなどが入っていました。歳神様を飾ったりする正月の準備は主人の役目で、雑煮も男の人が作る家もあつたけれど、うちでは女性が作りましたよ。しめ縄も農

家では自分で作って、カマドや井戸など何カ所にも飾りました。正月は親類が集まってお祝いするんです。子ども同士で遊んだけど、兄弟が10人以上という家も珍しくなくて、それはにぎやかでしたよ。3が日は働いてはいけないと言われていて、掃除もしませんでした。大みそかには「年越しそば」を食べたけど、実は家で打ったうどんでした。



泉龍寺に残る文書を元に再現した安政4（1857）年の信者用の雑煮。実はダイコンとニンジンだけ

元日の朝からお客さんの列

荒井千恵子さん（78歳・東和泉）の話
昭和27年に調布から銀行町にあつた丸甚呉服店へ嫁入りしました。着物やふとんのほか、洋品やたびなども扱っていました。元日も朝から営業しましたが、雨戸を開けると、もうお客さんが並んでいるんです。近所のお店は大みそかまで

忙しくて、正月の準備どころじゃありませんでした。それで元日の朝に着物なんかを買いにきたんです。こちらはもう忙しくて、ゆっくりお正月を祝うなんてわけにはいきませんでした。正月のやぶ入りも、2人いた丁稚さんは15日と16日に休みましたが、私はなかなか実家に帰れませんでした。

50銭ぐらいだったお年玉

荒井達雄さん（76歳・中和泉）の話
私は丸甚呉服店の生まれです。正月はお客に手ぬぐいを配るんですが、暮れは夜中の2時、3時までかかって手ぬぐいを折りました。戦争中は小学生でした。食料が配給になりましたが、お雑煮だけは食べました。お年玉ももらいましたが、たしか50銭ぐらいでした。正月の3日間はこの揚げやコマ回しをして遊びました。セイノカミも楽しみでした。

銀行町

昭和20年代



田んぼの中に自分たちで作ったどんど焼きの小屋に入って遊ぶ子どもたち。後方が銀行町

楽しかった子どもたちの行事

本橋久那さん（73歳・東和泉）の話
昭和22年ごろ、私は中学生でしたが、銀行町の子ども10人から15人ぐらいでセイノカミをやりました。七草が過ぎたころ、商店を回ってお飾りや菓子、おひねり（お金）をもらいました。家が商店の子が多いので、竹やわらは農家からもらって銀行町の南東側の田んぼに、2日ぐらいかけて組み立てました。できあがると中に数人入って、火をたいて菓子を食べたりして遊びました。小屋は10日過ぎに燃やしました。戦争中もやっていましたが、お正月の楽しみでした。戦争中はもちろん、戦後も食糧難でなにもないし、お年玉をもらったって、買うものがない。駄菓子屋でアメ玉をかうぐらいだったんです。



1990年ごろ

駒井町

駒井町のどんど焼き。40年ほど前まで各集落で行われたが、姿を消した。その後、約20年前に地元の駒美会によって復活、多摩川の河川敷で10年ぐらいいの間続けられた。



2007年



アトラクションで盛り上がる新成人

予算の割り振りに苦労

大場悠さん（21歳・和泉本町）の話
平成19年の成人式の実行委員として、新成人9人が9月から企画から準備、当日の司会や運営まで担当しました。一部の式典に続いて、二部はクイズ大会、アトラクション、ビデオレターなどです。出席者が一体感を持てるよう舞台上がってもらいなどの工夫をしました。決められた予算を、抽選会やパーティー、ビデオレターなどに割り振る作業はいろんな意見が出て、まとめるのがひと苦労でしたが、すごく勉強になりましたね。ビデオレターを作るため、市内に住んでいる全全顔識がないタレントに取材に行ったことがいい思い出です。

学校が会場になった成人式

岡本岡一さん（72歳・川崎市麻生区細山）の話
昭和44年まで町（当時）の教育委員会で社会教育を担当していました。成人式も受け持ちましたが、会場には狛江第一小学校や中学校（現・一中）を使用しました。ほかに適当なところなかったのです。41年は新築された狛江中の体育館で、式典に続いて国立国会図書館長の講演をしました。会場は暖房もあんまりなくて、寒かったですが、みな静かに聞いてくれました。いまと違って、式は厳粛な雰囲気でした。当時から女性は振りそで、男性もスーツが多かったです。新成人には、このとき朱肉セットを贈りましたが、この記念品選びにけっこう苦労し



新築の狛江中体育館で催された成人式

ました。式の内容は、青年学級の人たちから意見も聴いたりして考えました。



1990年ごろ

第一小体育館で催された成人式

写真提供・取材協力＝秋元キサ、荒井千恵子、荒井達雄、本橋久那、岡本岡一、大場悠、大関路恵、栗山祥夫（順不同・敬称略）資料＝『狛江町広報』『萌動』（狛江市）